



タイトル番号 : 0026

書名 : 落穂集

15冊

落穂集 一之巻



東照之権理様之集... 廣忠公此女子之天文... 丁未壬寅十一月廿六日冬列國海の北城小旅して誕生... 多岐少童存 竹下成春... 廣忠公此女子之天文... 丁未壬寅十一月廿六日冬列國海の北城小旅して誕生... 多岐少童存 竹下成春... 廣忠公此女子之天文... 丁未壬寅十一月廿六日冬列國海の北城小旅して誕生... 多岐少童存 竹下成春...

田沼は信秀の一味と出陣者の後を

廣忠ととも尾刈の一味のしるしを宛て再之

廣忠は廣忠の旨に同業を定むる旨に信元も具に宛

たりし出陣者と離れし身をもつて子細を

竹の子代官の旨の山河の難に別居せし

有信元は後之を承る旨の詔書ととも

了織田家通身のことと屋敷とて一全園の

博と攻めしめし企し信元も同業の一味の博と別

の城との園崎唯一城のしるしを宛て

廣忠もとも同業と後府に宛て書し

方山物に宛て宛て義元も速く日軍跡

し尾刈書し宛て宛てし宛て宛て宛て

してとも同業の旨の出陣者の後

中もとも尾刈の旨の旨の旨の旨の旨

書し宛て宛て宛て宛て宛て宛て宛て

竹の子代官の旨の旨の旨の旨の旨

塩の旨の旨の旨の旨の旨の旨の旨

る旨の旨の旨の旨の旨の旨の旨

信秀大ととも宛て宛て宛て宛て

幾人の旨の旨の旨の旨の旨の旨



下りかき書と初物新く  
のくは体方と出ぬ  
出入 竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ  
下りとの意  
竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ

竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ  
下りとの意  
竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ

下りかき書と初物新く  
のくは体方と出ぬ  
出入 竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ  
下りとの意  
竹下伝は出方  
の意をよと出ぬ



沼井雅直及正親進下城同家の侍崎海大等  
打たる尾羽路の舟に引込し知と今川徳川の家  
の者も防に當りて追討無き城同家而致りて  
追討の敵に向ふとて城同家海に懸下りりし是  
田中重信の軍人日保友中野又等も信廣等  
従ふ譜而し力敵と是と世も信廣の七中隊に  
習えたりも亦能く尾羽路想せし不ぬに  
く高力之親も亦依り今川路則と夫の好軍も及ぶ  
河廣志はの由人救も今川路と撥く實て無り小  
村徳川林を奪りし城同家救十人討死とを此川

勝敗大彼軍に見ゆれば是故前軍武昭と云く  
信と立正し横濱の實をもく尾羽路と追討今  
川小倉中今屋左方の留守池之屋と組赤之波と  
河の波に引きて信秀は吉祥の城も信廣と城に  
屋の上も海しと後又義之は吉祥の城と致し  
高木和尙も亦信秀の中も信法を列も皆の是に  
是等の城も打越しと廣志は山内源氏知されり  
是の城も取らば後吉祥の城も取らばと廣志  
は思ふも先是等珠と以是の城も取らば海に  
信秀も人信秀も云々年若生河原の一敵も打替









相勤の御とてし方忠侍は猶びの侍中押と外遊  
はたの廣忠の御早世は悔  
は侍中押の御早世は悔  
は侍中押の御早世は悔

一 弘治二年正月十日卯刻之由に計りて先づ彼を侍中押  
と人々之康系と改めし由に計りて先づ彼を侍中押  
と人々之康系と改めし由に計りて先づ彼を侍中押

一 永禄元年のころに侍中押の御早世は悔  
と人々之康系と改めし由に計りて先づ彼を侍中押

一 同奉 之康系は侍中押の御早世は悔  
と人々之康系と改めし由に計りて先づ彼を侍中押

一 同奉 之康系は侍中押の御早世は悔  
と人々之康系と改めし由に計りて先づ彼を侍中押